

「職業・薬剤師」はどこに向かっているのか

■ 子供が将来なりたい職業に

「職業・薬剤師」は、最近では注目される職業になり、雑誌やテレビで取りあげられたり、「子供が将来なりたい職業」にもランキング入りするようになりました。

理由は何でしょうか。子供がなりたい職業といえば、日頃、接触の多い職業となりがちです。ケーキ屋さん、パン屋さん、お花屋さん、幼稚園の先生、等。

さて、「薬剤師」はどんな職業だと想像しているのでしょうか。日頃、親と一緒に買い物に行くドラッグストアにいる薬剤師を見て、それとも、小児科に隣接する薬局にいる薬剤師を見て、でしょうか。それとも、至るところにある薬剤師の高給求人募集に注目した親が、「安定した給料がもらえる仕事」と認識して、子供に勧めているのでしょうか。

いったい、子どもが将来なりたい職業になった理由は何でしょうか。

その理由は何にせよ、以前に比べ「注目される職業」になったのは確かです。

■ 4年制から6年制へ移行しました

平成18年度の入学者より、薬学部は6年制になりました。

文部科学省のホームページによると、薬学部6年制への移行の目的は、「医療技術の高度化、医薬分業の進展等に伴い、高い資質を持つ薬剤師養成のため」とあります。薬剤師として働く際に必要な実務スキルの習得がカリキュラムに新たに追加され、5年次の実習前には、OSCE、CBTという共通試験が導入されました。

実習期間も長くなり、病院薬剤師、薬局薬剤師になるための即戦力となる実務スキルが大学教育の中で教えられるようになったことは、薬学教育の大きな変化といえます。

今の日本において大きな問題となっているのは、この国の社会保障についてです。中でも、40兆円を超す医療費の抑制については、さまざまな策を講じながら、効果を出そうとしています。65歳以上の人口割合が30%を超える2025年に向けて「地域包括ケアシステム」を提示していますが、その中の「ICT化」「住まい・医療・介護・予防・生活支援という5つのキーワード」に、薬剤師はどう関わり、存在感を出していけるのでしょうか。

■ 病院薬剤師は「臨床薬剤師」を深め、 薬局薬剤師は「かかりつけ」「在宅」「予防」へ

薬剤師の収入の源になる診療報酬について、病院薬剤師に関わるものとし

ては、平成24年度に「病棟薬剤業務実施加算料」が新設されました。病院薬剤師が積極的に病棟業務に関わることを推進して新設されたものです。最近ではさらに救急医療、小児分野などでも活躍が期待されています。処方設計に関わることに期待されていることも大きな変化です。

薬局薬剤師に関わるものには、調剤報酬の内訳をみると、在宅医療への取組みに関するものに重点配分されていることから、特にそれが求められていることが分かります。そして、医薬分業の目的である「かかりつけ薬剤師」「薬局」を実現させ、患者が服用する薬の一元管理をする責任者として期待されています。予防に取り組む国民の相談担当としての役割も望まれています。

■ 時代も自分もどんどん変化していく

時代は移り変わるもの。IT化や規制緩和がさらに進む時、皆さんが入学した時と6年後の卒業時は、いろいろなことが変化しているでしょう。そして人間も、今日の自分がずっと永遠に同じ自分なのではなく、いろいろな仕事経験や環境、人との出会いで変化していくのが常です。

薬剤師として、どのような職業人生を歩み、プロとして力を発揮していきたいのか。今日の業界、今日の自分を見て「これ」と決めつけるのではなく、将来薬剤師としてこんなことをやりたい、やってみたい、を現実のものにするために、今、何をどのように考えていけばいいか。

その「考え方」を学ぶのが「キャリアデザイン」というものなのです。

■ 地位向上のためには

医薬分業がバッシングされ、薬局不要論が話題になる今だからこそ、薬剤師という職業がどうあればいいのか、薬剤師自身が真剣に議論すべきです。

薬剤師が本当の意味で尊敬される職業になるのか、単なる安定した資格職業と認識されるのかは今働いている薬剤師次第です。例えば、看護師は、看護師という職業をもっと尊敬され、自立した地位の高い職業にするために、自ら職域を広げようと努力し続けています。薬剤師にもその情熱が必要です。

将来の職業・薬剤師がどんな職業になるかは、国が決めるものではありません。薬剤師として働く皆さん、これから薬剤師になる薬学生の皆さんの「志」がそれを決めていくのです。皆さんが意志を持ち、作り上げるものであることを忘れてはいけません。

皆さんは、「キャリア教育」というものをいつから受けてきたでしょうか。実は最近では、キャリア教育は小学校のカリキュラムから導入されていて、大学まで義務化されているのです。よく「就職対策講座」と誤解されている「キャリア教育」ですが、それは、いったい何のことをいうのでしょうか。

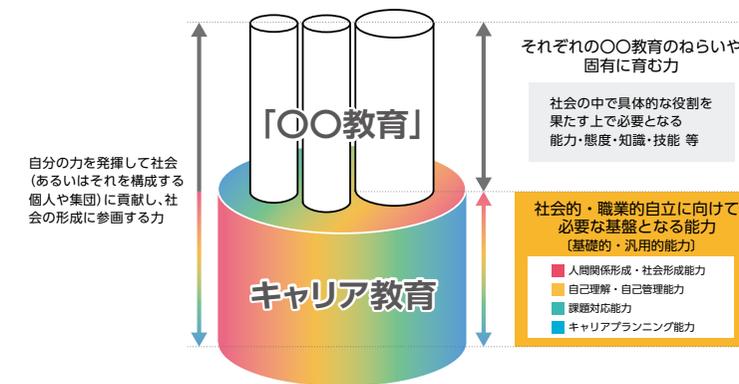
1 キャリア教育が必要となった背景

キャリア教育の重要性が叫ばれるようになった背景には、90年代後半に起きた情報技術革新によって引き起った社会・産業環境の国際化、グローバル化があります。これは日本の産業界、職業界に大きな変化を及ぼし、子供たちの成育環境を変化させ、また将来にも多大な影響を与えました。こういった環境の変化は、子供たちの心身の発達にも影響を与え始めていて、例えば、身体的には早熟傾向だが、精神的・社会的側面の発達はそれに伴っておらず遅れがちで、具体的には、「人間関係をうまく築くことができない、自分で意思決定できない、自己肯定感をもてない、将来に希望を持つことができない」といった子供の増加などがこれまで指摘されています。とどまることなく変化する社会の中で、それぞれが直面するであろうさまざまな課題に柔軟かつたくましく対応し、社会人として自立していくことができるようにする教育が求められています(文部科学省「キャリア教育とは何か」より一部抜粋)。

2 「キャリア教育」と「職業教育」

「キャリア教育」は「職業教育」のことではありませんし、包括されているものでもありません。

キャリア教育とは、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」(平成23年1月中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」より)と定義されていて、その教育の内容は、「特定の活動や指導方法に限定されず、さまざまな教育活動を通して実践されるもので、一人一人の発達や社会人・職業人としての自立を促す視点を持ったもの」とあります(図1)。



(国立教育政策研究所(2012)「キャリア教育をデザインする」
「今ある教育活動を生かしたキャリア教育」(P.4~5)より)

図1 キャリア教育と〇〇教育

ちなみに、職業教育とは、「特定の職業に従事するために必要な知識、技能、能力や態度」を身に付けることを言います。薬学部は、臨床薬剤師を育てる専門学部ですし、薬剤師になるにあたっての薬学知識や態度教育を行っていますから、そのほとんどの科目を通して職業教育を行っていると言えます。

3 キャリア教育で育成すべき力とは

では、皆さんが将来職業的に自立するために必要な基盤となる能力や態度、とはどのような能力をいうのでしょうか。

「分野や職種にかかわらず、社会的・職業的自立に向けての必要な基盤となる能力」として、「基礎的・汎用的能力」を身に付けることを目標としています(表1)。

4 4つの基礎的・汎用的能力とは

1 人間関係形成・社会形成能力

多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができる。自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ、他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力のこと。

【社会でなぜ必要なのか】

社会との関わりの中で生活し仕事をしていくうえで、基礎となる能力。特に、価値の多様化が進む現代社会において、性別、年齢、個性、価値観等の多様な人材が活躍している、さまざまな他者を認めつつ協働していく力が必要となるのです。また、変化の激し

自分の夢のこと、自分自身のこと、皆聞いて下さい！

※大学のキャリア講義で使用しているワークシートです

	将来の仕事について		自分自身について
「薬学部」にきた理由		自己開示… ①自分が誇れる私 ②自分でイヤになる私	①例) 人に対して好き嫌いをしない ②例) いつも自分を他人と比べてしまう
自分は ①将来どんな薬剤師、 職業人になろうと思っ ているのか		①自分が誇れる私 ②自分でイヤになる私 そんな自分はどんな思い、 考え方、コンプレックス、 等が根底にありそう？	①誇れる私・その根底にある考え方 例) 人は皆いいところがあると思う ②イヤな私・その根底にある考え方 例) プライドが人一倍高い
②その理由		上記の自分を見て、 今、どう思う？	
その仕事を通じて、 実現したいこと		生涯かけて私はこんな 人間になりたい!! (できるだけ具体的に)	

自分のキャリアを考える際には、「自分を知ること＝自己理解」が最も重要です。とはいえ、ほとんどの社会人は「自分ほど分からないものはない」「死ぬ時に初めて分かるもの」などと言いますが、さて、皆さんは、自分のことをどう捉えていますか。
(P52のワークシート3参照)

1 自分って何だろう？

キャリアデザインを考える際に、「自分は人生をどう考えているか」「何を達成したいのか」と問うことをしますが、さてその「自分」は、どのような人間なのでしょう。どのような能力を持ち、どのようなことを考えている人なのでしょうか。
次の問いをまとめて、自分を知る手がかりにしましょう。

ワークシート3 (P52)

あなたは、中学校、高校で何を頑張っていましたか。
その頃の考え方はどのようで、変わったきっかけは何でしたか。
そして今、その頃と比べ、自分はどのように変化していますか。

ここで、自分が自分をどのように見ているか、まとめてみましょう。
あなたは、どんな人なのでしょうか。

「私は、」のあとに、思いつくまま書き込んで、自分がどんな人か整理してみましょう。

(例) 私は、一度決めたら最後までやりきる性格です

私は、
私は、
私は、
私は、

●挙げてみた自分を見て、今、どう思いますか

ポイント

「自分の薬剤師キャリアを考える」際には、まずは、自分は子供の頃から何を考えていて、どうして薬学部進学に行き着いたのかを自分で認識することが大事です。そして今、その自分をどのように評価しているのか、何が課題で、この先どうしたいと思っているのかを整理してみましょう。

2 自分に自信がある、自信がないとはどんなことか

皆さんは、自分に自信がありますか？

私が薬学生と会話をしていて感じるのは、自分に自信がない、という人の方が圧倒的に多いということです。この自分に「自信がある」「自信がない」というのはどういうことなのでしょう。それを決めているのは、他人ではなく自分自身ですね。

このように、自分で自分自身をどのように見ているか(＝「自己イメージ」)が、自分に自信がある、ないを決めています。

ワークシート4 (P53)

自分に自信を持っている人と持っていない人、どんな違いがあるのでしょうか。

ポイント

人間には誰にでもコンプレックスがあると思います。どんなに頭が良くても、運動ができて、美人でもイケメンでも、誰にでも何らかのコンプレックスがあるのです。完璧な人間はいない、そういうものだと思います。

それを、「自分はダメだ」「どうせ私は・・・」と暗くいじけて生きていくか、「このコンプレックスは仕方ない。いいところをもっと目立たせよう」と前向きに頑張っていくか、これも自分の考え次第。

そう、こういった違いは、「自分の考え方」次第ということなのです。「考え方」が間違っていると、悪いのは他人だ、社会だと言い、周囲の人とトラブルが多かったり、友達ができなかったり、評価されなかったり、うまくいきません。

この「考え方」が、人生の成功、不成功を左右すると言っても過言ではありません。

自分のポートフォリオを作ってみましょう！

※大学のキャリア講義で使用しているワークシートです

(記入方法) それぞれの年代において、自分自身にどのような出来事・変化が起こっていたのか、振り返ってみましょう。

	中学生	高校生	大学入学から今日まで
●その頃の自分の「夢・野望・志」は、何でしたか？ また、どんなことを考えて頑張っていましたか？			
●その頃の自分が大事にしていた考え方＝ポリシー」は、どのようなものでしたか？			
●その頃、自分の考え方（人生観、価値観、仕事観など）が変わった経験のある方→きっかけは何でしたか？			
●その頃、「薬剤師という職業」をどう捉えていましたか？			
		●中学生の頃と比べ、変化した点は	●高校生の頃と比べ、変化した点は

働く薬剤師には、それぞれさまざまなキャリアがあります。

どれが成功で、どうだったら失敗ということではありません。

その人の描く理想の人生において、仕事をどう捉え、取り組むかは、

その人の考え次第でいいのです。

ここでは、何人かのキャリアを紹介します。

皆さんが自分のキャリアデザインを考える際の参考にされてみて下さい。

ただし、ここに紹介する方々も、まだまだキャリアデザインの途中で、

悩みながらも前に進んでいる職業人たちののですよ。

ここでは、8人の薬剤師のキャリアデザインをご紹介します。皆さんに観察していただきたいのは、それぞれの方の「意思決定について」です。大学卒業時には、就職先をどのように捉えて決めたのか、転職しようと思ったのはどのような心境だったのか、そして、今後のビジョンをどのように捉えて今に至ったのか、という点です。

- ・ Aさん、Bさん ぼんやりしたビジョンが段々と明確になっていった方
- ・ Cさん 卒業時から一貫してビジョンが変わっていない方
- ・ Dさん 子育てと仕事のワークライフバランスに葛藤した方
- ・ Eさん モデル薬剤師がいないことに悩みながらも、プロを目指す方
- ・ Fさん 自分のスキルアップを転職で実現した方
- ・ Gさん 未だ、キャリアゴールが見つからず、ドリフト（漂流）中の方

をご紹介します。

30代後半以降のキャリア層

● Aさん 38歳男性 チェーン薬局勤務 転職歴1回

卒業時の就職活動は.....

2000年頃の就職活動時は、ドラッグストアが勢力を伸ばしている真っ最中。この方は、ご自宅のある関西近郊で、勢いのあるドラッグストア企業を模索。その中から3社程度絞る。どれも地域密着の戦略を掲げ、興味を持ったが、ある薬剤師社長の薬剤師を中心に考える展開戦略、アメリカ型調剤併設店のビ



ジョンに共感し、入社を決めた。

- 入社後5、6年経過し、ドラッグストア業界も全国的な競争が始まる。地域密着戦略の会社ビジョンも薄れ、近隣の企業群と資本提携。日本一を目指す戦略に変化し、だんだんと売上至上主義になっていく。薬剤師だったら誰でもいいから採用すべきといった考えに疑問を持つようになり、「もっと薬剤師として真面目に正直に仕事がしたい」と思うようになる。エリア長で高い年収だったが、次の会社で納得のいく仕事がしたい、と転職を決意。
- 果たして、そんな自分の考えに合う会社はあるのか、と不安になりながらも、いろいろな企業をしてみる。患者に対する課題解決力が乏しい処方箋調剤専門薬局には元々あまり興味がなかったが、ある薬剤師経営者の志高く仕事に向かう姿勢に共感。さらに、自分の経験が生かせるポジションもありそうなので転職。
- マネージャー職だった前職から比べると、勤務薬剤師としての入社は年収も下がるが、本人は「会社が変わったので年収が変わるのは当然。実力でまたもらえるようになりたい」と言っていた。しかし、その実力は、入社後すぐに発揮され、転職後半年で薬局長に。1年後には新規開局の責任者になり、後輩の指導もこなす。現在では、本部にて人事教育責任者として新人、薬剤師社員の教育プランの策定、実行をこなす。「正しいことをやれ」と言ってくれる経営者の元で仕事ができて本当に働きやすい、と感じている。
- 今後のビジョンについては模索中。少し現場から遠のいているので、変わりゆく薬剤師の現場を見ると、また戻りたい気持ちもあるし、まだあまり得意としていない会計のことなど、経営に関してはまだまだ勉強しなければならないことも多いという。

ポイント

この方は「薬剤師としてプロの仕事がしたい」「プロ薬剤師として正しいことをしたい」ということを考えの中心にしています。その点で「利益至上主義」「薬剤師のレベルアップを検証せずに進める多店舗展開」には違和感を感じていたのです。給料は高かったが、毎日仕事をしていて納得のいかない日々だったとのこと。

大学の
キャリア教育
にも使える

薬学生・薬剤師のための

キャリア デザインブック

ver. 2

著者略歴

にしづる ちか
西鶴 智香

昭和 43 年生まれ 大分県出身

1990 年愛媛大学法文学部卒業後、同年 4 月株式会社リクルート入社
新卒採用コンサルティング営業、営業企画を担当

1996 年人材派遣会社・福岡オフィス責任者を経て、1998 年ドラッグストア、チェーン薬局の人事・採用アドバイザーとして
フリーランサーで独立

自治体（岐阜県、長崎県、熊本県、大阪府）のキャリアセンターのカウンセラースーパーバイザー、Jリーグキャリアサポートセン
タースタッフとしても活動

2004 年株式会社キャリア・ポジション設立、代表取締役就任
薬剤師専門のキャリアカウンセリング、転職支援、全国の病院・薬局・ドラッグ企業の人事採用教育関連アドバイザー・
社員研修なども担当

看護学部・薬学部非常勤講師（キャリアデザイン）

国家資格キャリアコンサルタント

米国 CCE,inc. 認定 GCDF - japan キャリアカウンセラー

所属学会：日本キャリアデザイン学会、日本インターンシップ学会

大学のキャリア教育にも使える

薬学生・薬剤師のための

キャリアデザインブック

ver. 2

2017 年 9 月 1 日 第 1 刷発行

著者 西鶴 智香

発行 株式会社薬事日報社

〒 101-8648 東京都千代田区神田和泉町 1 番地

電話 03-3862-2141 FAX 03-3866-8408

URL <http://www.yakuji.co.jp/>

印刷 昭和情報プロセス株式会社

デザイン 株式会社アプリオリ

ISBN 978-4-8408-1407-2

落丁・乱丁本は送料小社負担でお取替えいたします。

本書の複製権は株式会社薬事日報が保有します。